

第49回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会



会場	福岡市総合体育館	
日時	平成31年3月24日 (日) 13:30	
コート	Aコート	第4試合
カテゴリー	男子	決勝
主審	宇地原 尚彦	
第1副審	伊藤 彰二	
第2副審	川島 司	

TEAM A		TEAM B															
福岡第一 98	<table border="0" style="margin: auto;"> <tr><td>28</td><td>1st</td><td>12</td></tr> <tr><td>22</td><td>2nd</td><td>6</td></tr> <tr><td>30</td><td>3rd</td><td>16</td></tr> <tr><td>18</td><td>4th</td><td>26</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	28	1st	12	22	2nd	6	30	3rd	16	18	4th	26	OT			60 福大大濠
28	1st	12															
22	2nd	6															
30	3rd	16															
18	4th	26															
OT																	
福岡1位		福岡2位															
○		●															

【BOXスコア】

TEAM A		福岡第一高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
1	當山 修梧	3	1			1	
8	河村 勇輝	◎ 26	4	6	2		
13	神田 壮一郎	○ 2		1		1	
23	砂川 琉勇	0					
27	松本 宗志	0				1	
31	ハーバージャン ローレンス ジュニア	6		1	4	2	
37	仲田 泰利	1			1		
40	三宅 翔りーディローチ	0				1	
44	内藤 凌太	0					
46	小川 麻斗	○ 19	1	7	2	1	
54	内尾 聡理	○ 13	1	5		2	
59	山田 真史	6	2			1	
60	クベマジョセフ スティープ	○ 12		6		1	
63	井上 僚人	0				1	
65	キエキエトビー アリ	10		5		1	
コーチ	井手口 孝						
合計		98	9	31	9	13	

TEAM B		福大大濠高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	西田 公陽	◎ 5		2	1	1	
5	高木 寛大	12	1	3	3	2	
6	田邊 太一	○ 17	2	4	3	3	
7	間山 柁	○ 3		1	1		
8	木林 優	○ 14	3	2	1	1	
9	西田 陽成	0					
10	平松 克樹	4		2		3	
11	杉 渉夢	0				1	
12	山際 爽吾	0					
13	原田 大和	0				2	
14	横地 聖真	○ 5	1	1		1	
15	岩橋 史門	0				1	
16	廣政 遼馬	0					
17	大浦 禅次郎	0					
18	渡辺 康太	0					
コーチ	片峯 聡太						
合計		60	7	15	9	15	

【戦評】

全九州大会決勝戦、福岡県1位福岡第一対福岡県2位福大大濠の対戦、福岡第一のスターティングメンバーは、#8、#13、#46、#54、#60、福大大濠のスターティングメンバーは、#4、#6、#7、#8、#14、で試合開始。第1Q、先制したのは福岡第一。#60のゴール下から始まり、厳しいディフェンスからの速攻と#8の3ポイントで開始間もなく10得点。対する福大大濠は#14が3ポイントを決めるもペイント内へのボール供給が難しく苦しい展開。第1Q終盤、福岡第一が#54の連続得点で波に乗り、12-28とリードして第1Q終了。第2Q、福岡第一はゾーンディフェンス。福大大濠はアウトサイドシュートがなかなか決まらず、逆にリバウンドから福岡第一#8と#46のスピードプレーによってじわじわと点差が広がってしまう展開に。18-50と福岡第一リードで前半終了。第3Q、福大大濠が#6の3ポイントで先制し反撃をこころみるが#8、#46のシュートや#60の高さのあるプレーなど福岡第一の得点ペースは落ちない。その後も福岡第一の攻勢はやまず、第3Qは34-80と福岡第一が大幅リードで終了。第4Q、福大大濠#8がスリーポイントを決め反撃に転じる。相手のミスを見逃さず速攻に持ち込み連続得点をあげてチームに勢いをあたえた。しかし福岡第一も#31や#65のパワーあふれるプレーで応戦。福大大濠が必死に追い上げたものの、60-98で試合終了。福岡第一の勝利となった。福大大濠は序盤から積極的にアウトサイドシュートを狙っていくも、インサイドの守備が厳しく、ペイント内でのプレーやリバウンドにうまくつながらなかった。福岡第一はこれまでの試合と同じく堅守速攻と確率の高いシュートで得点を量産し優勝を勝ち取った。決勝戦にふさわしい、全力を尽くしてプレーした両チームの健闘を称えたい。

【戦評記者】 増永 洋祐
福岡県バスケットボール協会